



『人権』ってなんだか難しい言葉だけれど

どんな意味だろう？

毎年、十二月四日から十日まで「人権週間」について皆さんと一緒に考えてみませんか。

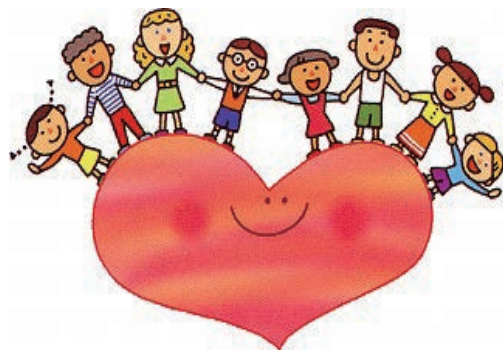
『人権週間』って

なんだろう？

毎年十二月四日から十日までを『人権週間』といいます。

一九四八年（昭和二十三年）十二月十日は、国連総会で人間の尊厳、自由と平等をうたった『世界人権宣言』が採択されたのを記念し、一九五〇年（昭和二十五年）の国連総会で十二月十日を人権デーと定めるとともに、全ての加盟国に実施を呼びかけました。

日本では、世界人権宣言採択の翌年の一九四九年（昭



どのような人権問題があるの？

毎日の生活の中での困りごと・心配ごと、離婚・相続などの家庭内の問題やプライバシーの侵害、隣近所とのもめごとなどの内容の相談を幅広く受けています。次のようなことは、【人権問題】です。

女性の人権



外国人の人権



子どもの人権



障害者の人権



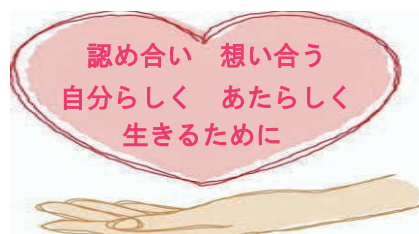
部落問題



高齢者の人権



インターネットと人権



和二十四年）、法務省と全国人権擁護委員連合会が、十二月四日から十日までの一週間を『人権週間』と定めました。

十二月十日は、日本だけでなく世界の各国々でも『人権』について考える日になっています。

『自分らしく生きる』とは

『人権』とは、一人ひとりが生まれた時から持っている「自分らしく生きる」権利のことで、すべての人が

思い合う心によって守らなければならないものです。

みんながみんな違うように、全部が同じ人なんて誰もいません。

『人権』は難しいものではなく、誰でも、心で理解して感じるができます。

一人ひとりの違いを認めたり、自分や相手の良いところを見つけて、それぞれが大切な存在であることを再確認する、大切な一週間です。

『人権週間』を機に

振り返ってみよう

日々の生活で、無意識のうちに『偏見』でものを見ていることはありません

ボランティア研修会のお知らせ

今年度も長い期間、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、緊急事態宣言が発令されていました。それに伴い、「さわやか」の学習会や、バスハイクといった行事が出来ませんでした。やっと緊急事態宣言が9月の末に解除されましたので、年が明けて1月30日に「さわやか」の顧問である江頭眞紀子先生をお招きして、研修会を開催することとなりました。詳細は下記の通りです。

記

日時：令和4年1月30日（日）
10時から12時

場所：小倉リーセントホテル 帆柱の間

講師：江頭眞紀子氏

（公益財団法人 健和会 健和会京町病院 医師）

※講演内容は未定

感染対策も万全に行なって、皆様のご参加をお待ちしております。

また、今後の感染状況により変更になることもありますので、ご了承ください。

ご参加の方にはお持ち帰りのお弁当があります。

主催：特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」

か？

偏見とは、かたよった判断や意見のことを指します。人は何かを判断する時に今までの経験などから自分の中に作られたものさしを使いますが、自分では疑いもなく使っているものさしの基準が間違っていることでもあります。

『男のくせに...』『女のくせに...』『外国人だから...』『外国人だから...』『外液型のO型は...』『外

ひとくくりにした考え方も思い込みや偏見に繋がります。

人と適切な人間関係を築いていくためには、初めから何かを決めつけるのではなく、一人ひとりが持つ多

様な『個性』その人自身を見つけたし、それを認めていくことが大切になります。

また、職場における人権問題では

『無知』、

『無自覚』、

『無意識』の

下に、静かに進行している場合があります。

十二月四日から十日の『人権週間』を機に、職場で行なわれているマネジメントについて振り返ってみませんか？

（インターネットより参照）





新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの

同時流行に備えましょう

年末年始が近づいてきました。規制や移動、会食の機会が増える時期です。新型コロナウイルス感染症だけでなく、空気が乾燥する冬は、インフルエンザやノロウイルスによる感染症胃腸炎なども流行しやすいです。同時流行を防ぐためにも、「一人ひとりが『かからない』『うつさない』『対策をしつかりと行いましょう』」

今季はインフルエンザの

大流行が懸念

インフルエンザは、例年十一月以降に本格的に患者が発生しますが、今季は、昨シーズンにインフルエンザにかかった人が少数だったため、社会全体の集団免疫が形成されておらず、大流行が懸念されています。

また、新型コロナウイルスの第6波が予期され、インフルエンザとの同時流行の可能性もあり、医療崩壊を招く恐れも指摘されています。

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスによる感染症です。

インフルエンザウイルス



は非常に感染力が強く、一旦流行が始まると短期間に多くの人へ感染が広がります。

インフルエンザは、突然の高熱や頭痛、関節痛など、普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し重症化するこ

とが多いので、体力のない高齢者や乳幼児などは、特に注意が必要です。

感染症学会がインフルエンザワクチンの

接種を呼びかけている

日本感染症学会はインフルエンザワクチンの積極的な接種を呼びかけています。

今シーズンのワクチン供給量は二六〇〇万本（約五二〇〇万人分）で昨シーズンより二割程度少なくなっています。

インフルエンザワクチンは、合併症のある高齢者の重症化による入院防止効果

集団免疫低下により

大流行の可能性

今季（二〇二一～二〇二二年シーズン）は、昨シーズンにインフルエンザにかかった人が少数だったため、社会全体の集団免疫が低くなっており、大規模なインフルエンザの流行が懸念されています。

集団免疫とは、集団の一定数が、ある感染症に対する免疫を獲得すると、集団の中に感染患者が出ても流行が阻止され、その感染症のまん延を防げるということです。

集団免疫が低下すると、多くの人たちがインフルエンザに対する免疫を持っていない状況となるので、深刻で長期間に渡る流行が起

接種を呼びかけている

のほか、低年齢の小児では発症防止効果があるとされています。

英国政府も今季のインフルエンザ流行は例年の1.5倍の大きさの流行になる可能性があるとし、国民にワクチン接種を呼びかけています。



この可能性が指摘されています。

また、新型コロナウイルスの流行

が収まりつつあることで出入国の制限が緩和され、国境を越える人の移動が増えることも懸念材料となります。

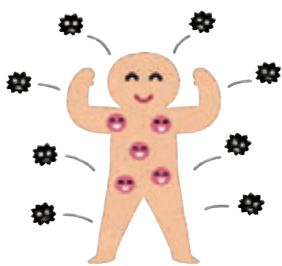
今のところ、オーストラリアなど南半球での流行はみられていませんが、パングラデシュやインド、パキスタン、ネパールなど、日本と密接な関係にあるこれらの国では現在インフルエンザが流行しています。

これらの国からインフルエンザが持ち込まれることになれば、大規模なインフルエンザの流行を生じる危険性があります。

コロナと同時流行ならば

医療機関は大混乱

もし、今冬にインフルエンザの大規模流行が起きるとすれば、全国で一二〇〇万人以上の患者が発生すると思われ、コロナウイルスが同時流行すると、双方の患者が発熱外来のあ



る医療機関に殺到し、これまでになく混乱をきたすことが予想されます。

東京大学大学院経済学研究所の仲田泰祐准教授が、二〇二〇年十一月から三ヶ月かけてコロナウイルス前の社会活動に戻り、年末までにコロナワクチン接種率が人口全体の1.8%となることを前提としたシミュレーションをしたところ、東京都では二〇二二年二月中旬ごろ第6波がピークを迎え、一日の新規感染者が一人を超え、という試算を示しています。

また、新型コロナウイルスの感染の増減は二ヶ月サイクルという仮説も出されていて、十月に底を打って増加に転じた場合、十二月に再度ピークを迎えることも推測されています。

コロナワクチン接種を終えても感染するブレイクスルー感染が報告されており、発熱や咳があれば、コロナ発病の可能性は否定できません。

また、新型コロナウイルスとインフルエンザの初期症状が似ているため、臨床現場では区別がつきにくいという難しい面もあります。

（インターネットより参照）